

さっぽろ

東本願寺

No,239

2025 3月号

行事報告	01
雲龍柳	02
今月のことば	03
お寺さんに聞いてみよう	04
門徒のおしごと	05
ひがほんっ子だより	06
法話 片山 寛隆	07,08
無盡蔵	09
連載 近代の教学者	10
すすきの探訪ツアー	11
共生	12
おしらせ	13,14

すすぎのに響く

初鐘の音

～自身の在り方 新たに修正会～

大晦日の午後11時半から初鐘が行われ、約260名が鐘を撞いた。新年が明けた午前0時から本堂で修正会を厳修し、約80名が参詣した。

おつとめの後、坂田輪番は新年の挨拶として「修正会はまさに自分自身の在り方を修正するお勤めです。自分さえ良ければ良いという風潮が世の中に溢れているように感じますが、そのような中であって、あらゆる人々と共に生きていきたいという、私の中にある願いに気付かされるということが大事です」と述べた。

また、今年も鴨々川ノスタルジア実行委員会主催の「すすぎの寺町スタンプラリー」が開催された。今回はすすぎの周辺に境内を持つ札幌別院、玉宝禅寺（豊川稲荷）、北海寺、新善光寺、成田山新栄寺、永照寺の6つの寺院が参加。スタンプを集めた方々には個数に応じて、鴨ノスのロゴが印刷された絵馬や各寺院の御朱印セットの記念品が約60名に配られた。

直前に激しく雪が降ったが、穏やかな天候の下、初鐘と修正会が無事勤められた。



▲札幌別院本堂



▲札幌別院鐘楼堂



▲スタンプラリーの様子



▲本堂にて修正会が勤まる

最後の華講報恩講

2月14日、華講による報恩講が旧御堂にて勤まった。参加した華講員6名は荘厳された仏前で職員と共に正信偈をお勤めし、坂田輪番の法話を聴聞した。

この度、札幌別院華講は華講員の高齢化と講員の減少に伴い、年度末で解散することになった。新年会を兼ねた報恩講後のお斎の席では、参加者は各々に今までの事を振り返り、思い出話に花を咲かせた。

華講には数十年に亘り、札幌別院の法要の際に仏華を立て荘厳して頂いた。そのご尽力に対し、華講に携わって下さった皆様方に感謝を申し上げます。



▲華講最後の法話の様子

雲龍柳

うんりゅうやなぎ

今年も早や2か月が過ぎた。

この間、様々な出来事や事件が当然のごとく起きています。アメリカ大統領トランプの返り咲きによる変容は突出して、アメリカ黄金時代など荒唐無稽こうとうむけいと思われるような発言も飛び出し、世界を揺るがし混乱は避けられそうにもない。「アメリカファースト」を公言し実行力もありそうだ。民主主義を標榜ひょうぼうしてきたアメリカ大統領なのかと疑わざるを得ない▼この地に来て、遅まきながらアイヌ文化に漸く関心を持つことになったのか、札幌にてアイヌ文化フェスティバルに参加した。彼らの心底からの叫びは「アイヌがアイヌとして生きていくこと」に何の制限も障害も弊害もなく堂々と生きて輝きたい。この願いに尽きるように思った▼明治維新により近代国家への歩みの中で行われた同化政策は、アイヌ民族と琉

球（沖繩）の固有の伝統文化を奪い、人間の尊厳・人権を軽んずるが如き暴挙である。その結果、日本は単一民族という事実誤認の発言をごく自然と語る政治家が出てきて、国内外から批判と慚感ひんしんかんを買っていることを思い出した▼あらゆる人々に対して、どう向き合うのか「誠実さと謙虚さ」は常に失念してはならぬことであるが、どうも我々は視野が狭く偏りを免れぬ悲しい存在のようだ。元来、人は個人の器量や資質・能力によってその存在価値が決定されていくような個人的存在ではない筈である。むしろ、あらゆる人々と共にという共同共感的存在なのだ。その意識が薄れていく昨今、私の中に「私たち」がいるという世界観を取り戻すことは至難の業であるのだろうか。

（坂）

今月のことば

親鸞一人が
ためなり

この言葉は『歎異抄』に「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり」とあり、また『口伝鈔』には「しかればすなわち、五劫の思惟も兆載の修行も、ただ親鸞一人がためなり」とあり、どちらも宗祖親鸞聖人の述べられたお言葉である。

以前テレビ CM に「命は大切だ・命を大切に… そんなこと何千何万回言われるより、あなたが大切だ… と誰かがそう言ってくれたら、それだけで生きていける」という言葉があった。もちろん「命は大切だ」や「命を大切に」は大事な言葉ですし、ほとんどの人が、それらにうなずきながら人生を歩んでいるのだと思う。

しかし、その歩みは世間の雑事に埋没して「命

は大切だ」「命を大切に」が、生きた言葉ではなく、ただの一般的な常識や概念になってしまい、結果「大切な命」がいつの間にか空しく過ぎていく日々になってはいないだろうか。

一方で「あなたが大切だ」という言葉は、その人に寄り添い、その人を思う生きた言葉だからこそ相手に響くのだと思う。

宗祖親鸞聖人の「親鸞一人がためなり」というこの言葉は、念仏のみ教えが、ただはるかな時や国を超えて伝わってきた教えというだけではなく、聖人にとって「あなたをこそ救う」という阿弥陀如来からの生きた言葉、呼び声として受け取られたという証なのではないかと思う。

牧野 欣胤

お寺さんに

聞いてみよう!

法事は
喪服?



法事の案内をもらいましたが、今まで出席したことがありません。服装は黒の印象があるのですが、喪服で問題ないでしょうか。

A. 時と場合によって選びましょう。
肩衣と念珠を忘れずに!



黒い服というと、近年は礼服と言って冠婚葬祭などの全ての儀式に着用しています。その中で葬儀や法事などの弔事に着用するものが喪服になります。喪服を着用するということは「喪に服す」という意味が込められています。

葬儀などの仏事では、現代は黒系色が常識になっていますが、日本の歴史の中では白系色の時代もありました。別院の古い葬列の写真をたずねてみてもやはり白い着物を着ています。しかし、ご遺体のいわゆる死に装束が白色ということもあってか、男女とも黒色を着るのが普通になりました。

また近代においては欧米の影響が大きく、黒系色が定着したようです。そして今はスーツで代用される事が多くなっていると思います。

服装というのは時と場合によって選ぶべきであることは言うまでもないでしょう。たとえば他人の家を訪問する時、関係性によりますがあまりにも軽装で行くことは相手を軽く見ていると取られかねません。改まった服装で行くことが、今回の訪問のご縁を大事に受け取っているという表明にもなると思います。

どんな服装が良いのかと考えだすとキリがないことですが、先方との関係性や、年忌の年数の進み具合を考慮して決めていくとよいでしょう。また何より、法事にお参りさせていただくという心を忘れなければ、それが自然と服装に表れてくるものかと思います。そして、どんな服装になったとしても、肩衣と念珠をお持ちになることが好ましいことです。



RETRO CAFE

ホッと落ち着く憩いの場

昭和レトロな
歴史ある喫茶店

門徒のおしごと

今年で42年目を迎える喫茶「クレストンハウス」を紹介する。店は中央区(南9条)東屯田通りに隣接し、町内の常連客の憩いの場となっている。笑顔が素敵なオーナーである上宮恵美子さんはコーヒー(1杯400円)を中心に軽食など(350円〜1000円)をお客さんに提供し、来られた方々と会話を楽しんでいる。

元々上宮家は明治時代より和・洋菓子の製造、販売を行っていたが、時代の変化に合わせて、1983(昭和58)年には亡き恵美子さんのご主人である上宮實さんが喫茶店を開業した。店名にあるクレストンはスペイン語で兜の前立てや山脈の頂上といった意味であるが、言葉の響きが気に入ってご主人が店名にされたそう。昭和の雰囲気が漂う店内は、カウンター席に加え、テーブル席が4か所設置されており、20人程が座れるスペースがある。朝はモーニングサービスもあり、開店と同時に来られるお客さんも多くいる。元気なうちは店を続けていきたいと語る上宮恵美子さんが経営する喫茶「クレストンハウス」に近くに来られた際には寄ってみてはいかがだろうか。



クレストンハウス

札幌市中央区南9条西9丁目2-7

営業時間：8時〜17時

定休日：土・日・祝日

TEL：011-532-2572

喫煙可 駐車場なし



ガしわちゃんの
ゆる〜い日常

サボテン



世界はひとつだけのお皿作り

コロナ禍を経て、子ども達を取り巻く環境にも様々な制限があり、その一つが入園の際に砂遊びができないことです。その為なのか土に触れることを嫌がる子ども達が増えたように感じます。しかし、入園後の様々な経験を通して本園の子ども達は、泥遊びが好きになっていきます。

毎年、園庭には子ども達が掘った穴が至る所にできます。夏になると、雨が降ってできた水溜りにダイブして遊ぶ様子も見られます。幼い頃から土に触れ、その感触を全身で遊び過ごしてきた子ども達は、ぐちゃぐちゃ・ぐちゅぐちゅ・ドロドロ・ベタベタ・・・土質の違いを感じています。自分の遊びに最適な土質を探して園庭中を掘ったり、水分量を調整してみたり、理科の実験のような遊びを毎日夢中になって楽しんでいきます。

子どもたちが夢中になる土を使った遊びの一つが、どろだんご作りです。手のひらでコロコロと丸めて転がし、集中力と根気が必要となることから、年中・年長さんでも簡単には作り上げることができません。試行錯誤を繰り返しながら夢中になっている子ども達の姿から、園生活の最後の思い出として陶芸に取り組んでいます。

3年間、土に触れる経験を積み重ねてきた子ども達一人ひとりが世界に一つだけの皿を作り、その作品を『卒園記念品』として贈っています。今年も園の近くにある円山陶房さんのご協力をいただき、個性豊かな作品を作りました。今から焼き上がって、子ども達の手元に届く日が待ち遠しいです。

札幌大谷第二幼稚園

園長 中里 泰子

法話

真宗の救いとは 苦悩の群萌を救済し

親鸞聖人が著された『教行信証』の総序の文に「権化の仁、齊しく苦悩の群萌を救済する」という言葉があります。私たちは「こういう時に助けて下さる」とか「私の苦悩を救って下さる」のが仏様なのだと思いつくることがあります。しかし、果たして仏様は私たち人間をどのように見ておられるのか。そのことがこの言葉に表されています。仏様は苦悩する群萌を救うためにこの世に出向されたというのです。

「萌」という字には生き活きと生きる、或いは芽生えるという意味があります。ということとは、仏様は私たち人間を活き活きと萌える存在だと見ておられるのです。しかし、それが苦悩するから萌えることが難しい。その様な私たちを救おうと、本来の活き活きと生きる存在になって欲しいと願われて出向されたのが仏様なのです。

生きていなければ死ぬこともできない

今は人生百年時代と言われ、やりたいことをやって生を謳歌していくことが生まれた意味だと言われます。そして死ということは見ないように触れないようにと生活しているのが私たちではないでしょうか。しかし、生まれて生きて死ぬ、それが生死、それがいのちということであります。また、どうせ死

ぬならコロッと死にたいという願望を持つている方もおります。しかし生きていなければ死ぬこともできない。生のみを見て死を見ない私たちは果たして生きていると言えるのでしょうか。もし時計が動かなくなれば電池を入れ替えたリネジを回したりすればまた動きますが、それでも動かなくなるとき「壊れた」と言います。対して生きていた人が息をしなくなったことを「死んだ」と言いますが、あなたは今生きていますか、それとも動いていますかということが仏様に問われているのです。私たちは動いて壊れるのではなく、生きて死ななければならぬ。壊れて終わったのでは生まれたことにならないのです。

真宗では寺院やお内仏の御本尊として阿弥陀如来の立像を安置していますが、これは仏様が私を救ってくださるお姿をあらわしているといわれています。「立撮即行」のすがたといい、立たれたのは私を助けようとして立たれたのではなく、「お前は生きているのか」と自分自身を問う目を向けておられる。私に対して「そのままでは危ないぞ」ということを表して下さっているのがこの姿ではないかと私は受け止めております。

親鸞聖人は「義なきを義とす」と仰います。これは言い方を変えると「常識なきを常識とす」と言えるかと思えます。これはどういうことかという、我々が常識として考えていることを一遍問い返すということです。私たちは、あの人は常識があるとか、あの人には常識がないとか言いますが、自分の常識を問うことはしません。お家の仏様を世話していたおじいちゃんやおばあちゃんが亡くなると次の世代の方から、「お坊さん、私は仏様のことは何も知らないので教えてな」と言われますが、仏様の事は知らなくても常識は知っているということでしょう。ですから私は「知らないのは仏様のことだけですか」と聞くのですね。仏様の事を学ぶということは常識を問うことを学ぶということでしょう。本当の常識とは何かということを学ぶのです。

私を見つめる眼を頂く

親鸞聖人の教えは簡単に言う夢から覚めるという事です。「色は匂へど 散りぬるを」という「いろは歌」があります。桜の花は綺麗だけれどもいつまでも綺麗じゃない。匂いは残っても散ってしまいます。そして「我が世誰ぞ 常ならむ」、いつまでも常ではない。無常ということ。常ということは夢だ

ということ。よく「こんな人とは思わなかった」と離婚するという話を聞きますが、相手が変わったわけではなく、そういう夢をこちらが見ていたという訳です。自分の思いに合う人だから好きになったというけれど、本来合わないのが当たり前。自分の体でさえ思い通りにならないのに、相手が自分の思い通りになるはずではありませんか。どこまでも自分自身を問うことなく、思い通りをいつまでも夢見る体質から目覚める。覚めるという字は「覚る」とも読みます。覚るとは自分自身を知ることです。人の事は良く見えますが自分の顔を見たことは無いでしょう。親鸞聖人の教えは願ひ事をする教えではない。しかしそういう事を聞いても願ひ事をしてしまう私を見つめる眼を頂くことなのだと思います。



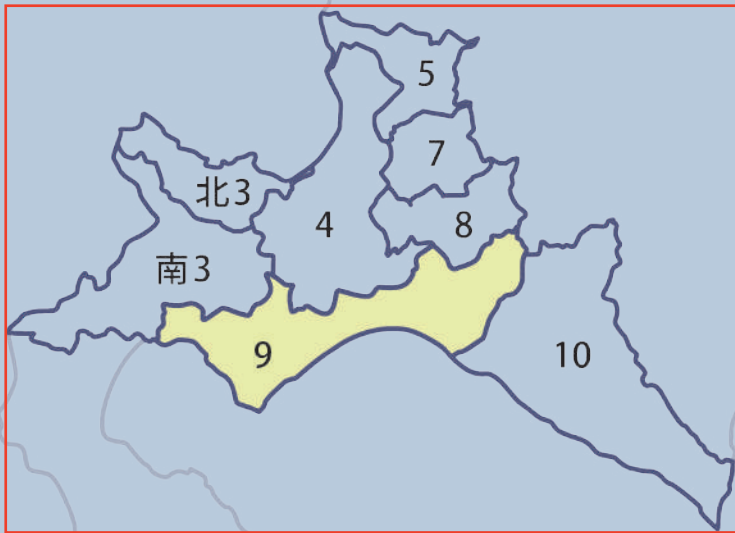
片山寛隆（かたやまかんりゅう）

三重県 相願寺

本稿は2024年10月の報恩講の法話要旨です。

無盡蔵

崇敬区だより



苫小牧市 陽願寺

〽代々開かれた寺院の歩み〽

苫小牧市矢代町に所在する陽願寺は、今年開創129年目を迎える真宗大谷派寺院である。

1896(明治29)年、苫小牧の門徒が同市本町に示談所を開設したのが始まりと言われており、1906(明治39)年には正式に真宗大谷派説教所となった。説教所開設当初は、札幌の寺院などから僧侶が代わる代わる派遣されていたが、1913(大正2)年に、福井県より札幌駐在布教使として渡道していた出雲路薫氏が苫小牧説教所の常勤として着任された。薫氏は説教所を護持しながら、無料宿泊所や孤児院を開設し運営するなど、地域の社会福祉に尽力された。



その意思を引き継いだ陽願寺開基住職である出雲路英一氏は、1952(昭和27)年の寺号公称に始まり、火事にて消失していた本堂の再建や、再開発による現所在地への移転など大変にご苦労された。しかし、その中でもあっても、子どもたちのためにお寺を開放し、日曜学校、書道教室、そろばん教室など多くの教育活動を行うことで、戦後の教育に貢献された。

現陽願寺ご住職である出雲路英淳氏は、長年札幌別院音楽法要において指揮者を務められ、又、北海道大学では文学部の講義をされるなど、多岐に活動を行なっている。取材の中でご住職は「宗教とは〈人〉あつてのものです。陽願寺合唱団「熟声会」を始め、ヨガ、お花教室、演奏会など現在も多くの活動をお寺で行っております。それらを維持していきながら、日々の法話会にいろんな人が聞法に來られ、親鸞聖人の御同朋御同行の教えをお寺の中で実現していくことが我々の仕事だと思っております」と述べられた。

福祉、教育、芸術と、形を変えながらも代々開かれたお寺であり続けることこそ真宗の教えの実践なのだ、取材を通して教えて頂いたことである。



第9組

陽泉寺 出雲路修一

近代教学の祖（後編）

清沢 満之

清沢満之は明治期に活躍した僧侶であり、宗教哲学者である。真宗大谷派における近代教学とは満之の出現以降を指す言葉であり、彼の功績なくして現代における真宗教学の発展はありえなかった。



清沢満之肖像画（大谷大学より提供）

発病（肺結核）と宗門改革

禁欲生活を続けた満之は、慢性的な栄養失調を引き起こし、前法主の葬儀において無理が祟り肺結核を患った。友人からの強い説得によって垂水（現神戸市）に身を寄せ、療養生活を送った。

療養中も、宗門の学事改革を積極的に行い、「教界時言社」を設立し、寺務改革にも取り組んだ。1年足らずで垂水の地を離れ、それまで以上に改革を推し進めたが、思う様にはいかなかった。この間に『在床懺悔録』や『他力門哲学骸骨試稿』を執筆した。

信念の確立

1897（明治30）年、妻の出自である西方寺に帰った満之は、病床に伏しながらも毎日欠かすことなく他力の信念を日記にしたためた。中でも有名な『臘扇記』は、法務に出られる状態ではない中、寺に帰った自身の不要さを、臘月（十二月）の扇子に喩えた題である。

また、「余の三部経」と表明するほど、『歎異抄』『阿含経』『エピクテタス語録』に親しみ、その信念を確立していった。

浩々洞と真宗大学

翌年、新法主の勉学補導の命を受け上京した満之は、そのまま東京に留まることになった。上京を知った真宗大学（後の大谷大学）の学生たちが満之を慕い集まり、彼らとの共同生活が始まったのである。満之を中心に興ったこの私塾は「浩々洞」と名付けられ、雑誌『精神界』を発刊すると、精神主義運動が世間に大きな反響を呼んだ。また、真宗大学の東京移転に尽力し、初代学監（学長）となった。

還浄「我はかくのごとく如来を信ず」

1902（明治35）年に長男の信一、立て続けに妻のヤスが死去した。哀傷の中、同年には学監を辞任し、満之は大浜の西方寺に帰った。自身の病状も進行し、死期も近づくなか、翌年には三男の広済も先立つ。満之は血を吐きながらも最後の絶筆『我が信念』を書き上げ、1903

（明治36）年6月6日、壮絶な人生の幕を下ろした。悲劇的な人生であっても、満之はその人生を「蒼然たる如来慈光の春に包まれて」生き切ったのである。彼が残した「浩々洞」からは多くの教学者が生まれ、また、彼が残した多くの著書は今もなお我々真宗人の教本となっている。

まさに「近代教学の祖」清沢満之なのである。



清沢 満之（1863～1903）

尾張国名古屋（現・愛知県名古屋市）生まれ
真宗大谷派（本山・東本願寺）の僧侶、哲学者・宗教家
旧姓は「徳永」。幼名は「満之助」
院号法名は、「信力院釋現誠」
真宗大学（現・大谷大学）の初代学監（学長）

著 / 教区駐在教導・宇都宮 力



すすきの探訪ツアー



「今日は楽しかった。お礼に肉まんを買ってあげるわよ」小柄な老婦人は、皆招楼で大きな肉まんが5つも入った箱を2つも注文し、「1つは貴女の分、もう1つは私の分」と、少女の様な笑顔を見せた。

彼女の名は三野明美。36号線に面する松岡ビルの地下にあるクラブ「みの」の経営者だ。薄野の一等地で長年看板を掲げている伝説のママさんの1人であり、是非お会いしてみたいと思いついた所、「Curtain Call」のイベントが、間を取り持ってくれたのだ。

目の前に現れた女性は、着物姿ではあるが控えめで、華やいだ夜のネオン

の世界とは程遠い雰囲気的女性だった。彼女はなぜ薄野のママさんとなったのだろうか。

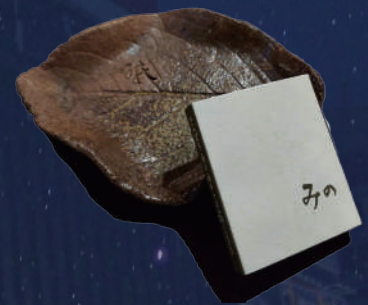
稚内出身の彼女が札幌へ出てきたのは、教員養成所へ通学をする為だった。偶々薄野で女性バーテンダーの募集しており、学費を稼ぐには丁度よいバイトだったのだ。

ウーマンリブ。彼女の話聞きながら、戦後に沸き上がった女性解放運動を思索していた。10年前の薄野では、在りえなかっただろう。

そして、高級クラブ「チカル」との出会いが、後の人生を大きく変えることとなった。万事控えめな性格が人望を集め、5年間雇われママとなったのだ。



三野明美
(写真提供：財界さっぽろ)



その後、31歳で独立。この時の開業資金はゼロだったそうだが、馴染みの客が1口1万円ずつ出し合い、およそ3千万円の資金が集まった。店内には7百万円もする豪華なシャンデリアが飾られており、半世紀以上もキラキラと妖艶に輝きを放った。

平成24年3月、彼女は静かに息を引き取り、時代の変遷の象徴であった高級クラブ「みの」の幕も閉じられたのだ。

駅前通りは常に流動するが、皆招楼の前を通ると、あの時の笑顔を時々思い出す。



著／民衆史研究家
石川 圭子

共生

アイヌ民族文化財団

理事長 **常本 照樹**



チョクマ！これはチカソー・インディアン版の「イランカラッテ」です。
今回は、前号から続いてアメリカのオクラホマ州におけるアイヌ民族文化財団の職員研修についてお話しします。今回の研修の目玉は、ファーストアメリカンズ博物館（FAM）とチカソー文化センター（CCC）でした。

ファーストアメリカンズ博物館（FAM）

FAMは、アメリカの先住民関連の展示施設として最大の博物館で、2021年に開館しました。2020年オープンのウポポイとほぼ同時期の最新施設です。コロナ禍でのスタートや新参者としての苦労など、多くの共通点があります。

先住民ルーツの職員とマジョリティの職員との関係や、お客様からの心ない言葉に悩む職員など、先住民との長い歴史を持つアメリカにおいても、私たちが直面しているのと同じ問題がいまだにあると聞き、その根深さを実感しました。



▲チカソー・カルチュラル・センター

チカソー・カルチュラル・センター

CCCは博物館、劇場、伝統的家屋の復元、文化体験プログラムなど、ウポポイと同じコンセプトで作られていますが、大きな違いは、ウポポイが国立施設であるのに対し、CCCはチカソー族自身がチカソー文化を発信するために作った施設であるという点です。そして、その実現に役立ったのがカジノの収益でした。

アメリカの多くの先住民部族は経済的に厳しい状況にありますが、1980年代頃からインディアン保留地内でカジノを運営する部族が増えてきました。大都市に比較的近い保留地を持つ部族は、カジノからかなりの収入を得たと言われています。同じ先住民であっても、アメリカでの事例がすべてアイヌに当てはまるわけではありません。しかし、民族のアイデンティティの根幹にある文化に真摯に向き合い続け、民族が共生する社会を求め続ける姿勢は共通していると、改めて感じた旅でした。

年間行事表 3~5月

3月	4月	5月
1日(土) 山鼻支院婦人会定例 13:00~ 宮本尊文(札幌市 顯淨寺)	1日(火) 山鼻支院婦人会定例 13:00~ 伊藤孝順(旭川市 昭法寺)	1日(木) 山鼻支院婦人会定例 13:00~ 相河朋昭(芦別市 光明寺)
2日(日) 札幌婦人会定例 13:00~ 研修室 出雲路修一(苫小牧市 陽泉寺) 豊白支院支院婦人会定例 13:00~ 曾我朋寛(北広島市 照道寺)	2日(水) 札幌婦人会定例 13:00~ 研修室 皆田法士(札幌市 清風寺) 豊白支院支院婦人会定例 13:00~ 伊藤孝順(旭川市 昭法寺)	2日(金) 札幌婦人会定例 13:00~ 研修室 金石晃陽(蘭越町 光福寺) 豊白支院支院婦人会定例 13:00~ 相河朋昭(芦別市 光明寺)
3日(月) 現来寺支院婦人会定例 13:00~ 宮本尊文(札幌市 顯淨寺)	3日(木) 現来寺支院婦人会定例 同上	3日(土) 現来寺支院婦人会定例 同上
4日(火) 北三条支院婦人会定例 同上	4日(金) 北三条支院婦人会定例 同上	4日(日) 北三条支院婦人会定例 同上
5日(水) 円山支院婦人会定例 同上	5日(土) 円山支院婦人会定例 同上	5日(月) 円山支院婦人会定例 同上
6日(木) 北支院婦人会定例 同上	6日(日) 北支院婦人会定例 同上	6日(火) 北支院婦人会定例 同上
8日(土) 開基現如上人御命日法要 13:30~ 本堂 山本 超(別院職員)	8日(火) 開基現如上人御命日法要 13:30~ 本堂 高月賢志(別院職員)	8日(木) 開基現如上人御命日法要 13:30~ 本堂 曲 尚之(別院職員)
		9日(金) おつとめ教室 15:00~ 本堂 札幌別院職員
11日(火) 勿忘の鐘 14:46~ 鐘楼堂 15:00頃~ 本堂 坂田智亮(札幌別院輪番)	11日(金) おつとめ教室 15:00~ 本堂 札幌別院職員	
12日(水) 大谷婦人会定例法座 休会	12日(土) 大谷婦人会定例法座 13:00~ 本堂 廣瀬智隆(岩見沢市 廣隆寺)	12日(月) 大谷婦人会定例法座 13:00~ 本堂 中西志香(中札内村 同朋寺)
15日(土) 親鸞講座 15:00~ 大谷ホール 小泉元瑞(江別市 瑞雲寺)		
17日(月) 春季彼岸会法要 13:30~ 本堂 寺林彰則(豊浦町 教心寺)		17日(土) 親鸞講座 15:00~ 大谷ホール 小泉元瑞(江別市 瑞雲寺)
18日(火) 同上		
19日(水) 同上	19日(土) 親鸞講座 15:00~ 大谷ホール 小泉元瑞(江別市 瑞雲寺)	
20日(木) 同上		
		23日(金) おつとめ教室 15:00~ 本堂 札幌別院職員
	25日(金) おつとめ教室 15:00~ 本堂 札幌別院職員	25日(日) 仏教講座「暮らしの中の仏教」 14:00~ 大谷ホール 中西志香(中札内村 同朋寺)
27日(木) 宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30~ 本堂 酒井 智(南富良野町 恵光寺)	27日(日) 宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30~ 本堂 中野誠二(帯広市 大昭寺)	27日(火) 宗祖親鸞聖人御命日法要 13:30~ 本堂 寺澤三郎(士別市 教證寺)
28日(金) 同上	28日(月) 同上	28日(水) 同上

札幌別院にて毎月2回13時から
お寺で俳句を読んでいます
講師 荒船青嶺先生に教わります

道ひらけ啓蟄の我外に出る 曲尚之
庭隅にポコポコとある地虫穴 置田正子
一目づつ余生編み込む糸玉 西田美智子
啓蟄や日ざしさびしき時を過ぎ 阿波幸
初便り覚えたばかりの字が並ぶ 東冬芽

札幌別院機関紙 令和7年3月掲載句

各支院 春季彼岸会・永代経法要日程

北支院	3月17日～18日	13:00～	中西志香
北三条支院	3月19日～20日	13:00～	仁禮秀嗣
豊白支院	3月19日～21日	13:00～	佐々木強
円山支院	3月20日～21日	13:00～	松澤正樹(20日は14:00～)
山鼻支院	3月21日～22日	13:00～	照山大智
現来寺支院	3月19日～20日	13:00～	伊藤 秀

親鸞聖人誕生法要・誕生児初参り式・花まつり

【初参り式】

- ◆受付：10:00～(記念撮影あり。法要は1時間程度)
 - ◆対象：未就園児
 - ◆受式志：10,000円(当日受付にて納めて下さい)
 - ◆申込み：申込み用紙がございますので、ご記入の上札幌別院事務所、または大谷幼稚園にお持ち下さい。(FAX可 011-521-4339)
- ◆日にち：5月2日(金)
◆時間：11:00～
◆場所：本堂



表紙紹介

Title 春が来た / Photo 菊池 恵子

永代経

尊い浄財を賜りました。ここに披露申し上げます。

【本院】

佐藤 正洋 様 西区
金田 紀子 様 白石区
東出 彰久 様 清田区

テレホン法話 ☎
(011)511-1313

3月前半	智慧光	吉田 法純
3月後半	人身受け難し	長田 了生
4月前半	本当のやさしさ	山本 英丸
4月後半	空しく過ぐる	九谷 知正

『つきあかり 東別院テレホン法話集』より

編集後記

近頃「オールドメディア」という言葉をよく目にするようになった。テレビやラジオ、新聞や雑誌を指す言葉で、ネットメディア登場以前から存在する旧来のメディアについて使われる言葉である。特に最近ではSNSを中心に侮蔑的な意味でも使われているようだ。このような風潮を利用し、伝統あるメディアの信頼性を貶め、自分に都合の良い極端な主張を広めて権力の座に返り咲いた人もいる。従来のメディアよりネットの言説を信じる人の割合が徐々に大きくなってきたように思う。私はインターネット黎明期よりネットにとっぷりだが、当時はネットの情報は胡散臭いものであり、先ず疑ってかかることが作法であり常識でもあった。勿論現代にも情報に対し慎重な人は多くいる。しかしSNS社会の情報拡散スピードは一つ一つの事柄についてじっくりと審議する暇を与えず、アルゴリズムによって矢継ぎ早に情報を届けてくる。ビル・ゲイツ氏は「インターネットは世界を事実に基づいた合理的なものにする」と期待していたが、実際には偽情報やクレイジーな考えを広める道具になっている」と語ったが、そのようなものが猛威を振るう社会はどこへ向かうのだろうか。益々本當の事がわからなくなっていく時代の中で、私の立脚地が問われているように感じる。

(山)



<https://ohigashi-sapporo.jp>



東本願寺 札幌別院

〒064-0807 札幌市中央区南7条西8丁目290
TEL.011-511-0502
E-mail. ohigashi@abeam.ocn.ne.jp

地下鉄南北線「すすきの」駅で下車
→市電外回り「東本願寺前」徒歩1分

WEBは▶
こちらから



さっぽろ東本願寺 2025 3月号No.239
(発行人) 真宗大谷派札幌別院
(代表者) 坂田智亮